

河川整備の経過と 今後の予定

令和2年10月17日(土)

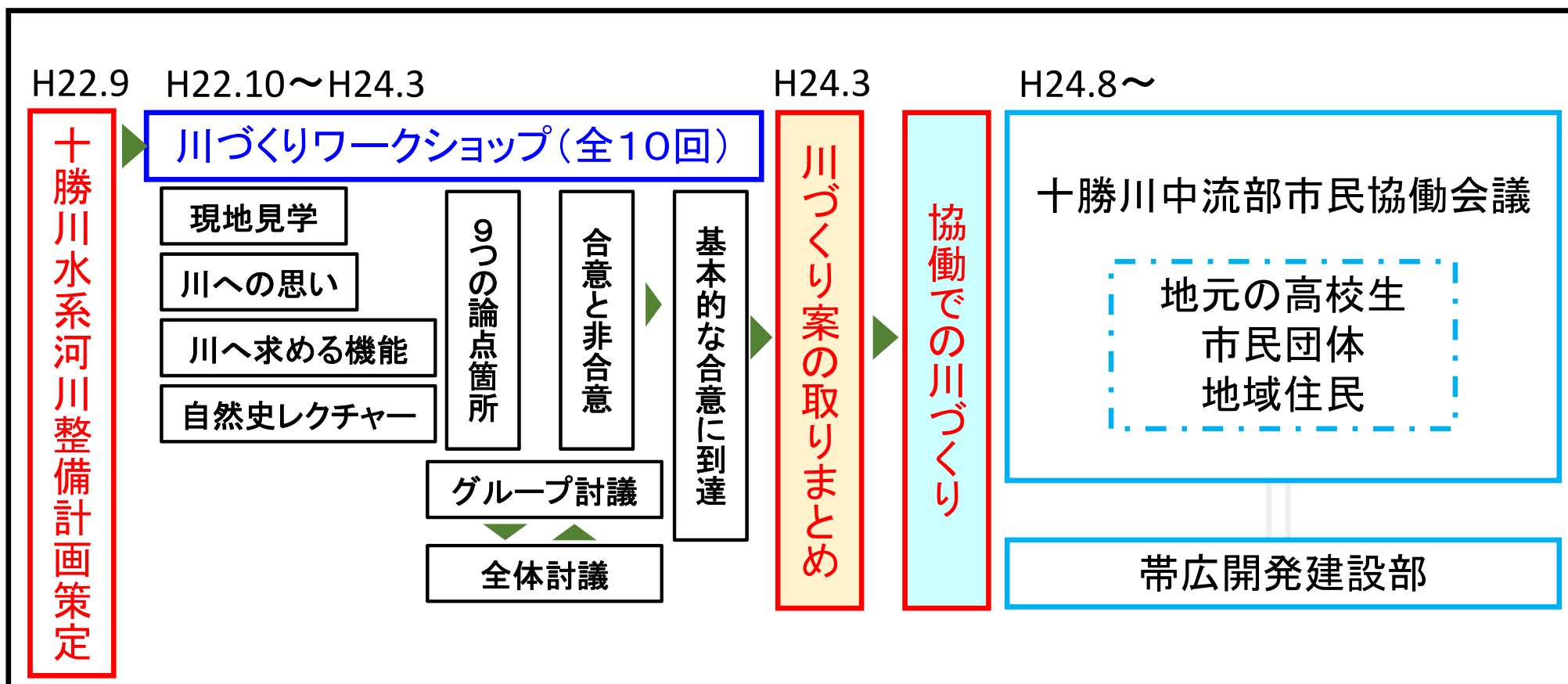
帯広開発建設部 帯広河川事務所

十勝川中流部の川づくり(案)について

帯広開発建設部では、十勝川中流部の治水安全度向上のために河道の掘削や伐採を行うにあたり、より良い川づくりに向けてその具体案を検討することを目的として、「十勝川中流部川づくりワークショップ」を開催しました。

ワークショップは10回開催され、河道整備の方向性を示す「十勝川中流部川づくり案」が取りまとめられました。

平成24年度からは「十勝川中流部市民協働会議」が立ち上げられ、地元高校生を含む地域住民、市民団体、行政が協働で、川づくり案に沿った川づくりを進めています。



十勝川中流部川づくりワークショップ 川づくり(案)と整備状況

1 音更川 整備中

2 音更川合流点下流①

3

4

5 相生中島上流左岸

6 相生中島より下流

7 メン川合流点下流

8 途別川合流点下流

9 十勝川温泉より下流

モニュメント中

掘削など概ね実施

掘削など概ね実施

H25

H24

H25-27

H25-26

7.2

合意事項

- [音更川合流点より上流]
 - 左岸側の樹林を伐採し草原環境へ
 - 連続性確保のため河岸の樹木幅10m程度を保全
 - 中洲や河道内の河原は現状を維持し、掘削は行わない
- [音更川合流点下流①]
 - 左岸側(音更側)の樹林を伐採し、草原環境へ(河岸側10m程度の樹木及びケショウヤナギ林を含む大型樹林を保全)
 - 右岸側(帯広側)の河岸を平水位で掘削(幅30~40m程度)
- [相生中島上流左岸]
 - 左岸側(音更側)の河岸を、樹木の連続性に配慮しつつ平水位で掘削
 - 樹林の分断される箇所では、連続性を確保するため樹林再生の試行的な取り組みを実施する。
- [相生中島より下流]
 - 中洲については、樹林化している部分(中洲の半分程度)を平水位で掘削し、河原環境の形成により再樹林化を防止する。
 - 右岸側にシヨウドウツバメの集団営巣地があるため、左岸側を平水位で掘削する。
- [音更川合流点より下流②]
 - 中洲を、左岸側半分程度を残して平水位で掘削。枝流は保全する。
 - 併せて、河原環境の形成を図るとともに再樹林化を抑制する。
- [相生中島上流右岸]
 - 右岸の河岸側の樹林を幅50mで保全し、その背後地の樹林を伐採。
 - 再樹林化を防止するために、掘削して湿地環境を形成する。
- [メン川合流点下流]
 - メン川と十勝川の合流部は、サケ稚魚の速やかな降下を考慮し、平水位で掘削するとともに、メン川沿いの樹木は保全する。
 - 平均年最大水位程度で右岸高水敷を掘削するとともに、再樹林化を防止するため、地域との調整を図った上で、凹凸を付けて多様な湿地を含む環境をつくる
 - 施工中の十勝川温泉側からの景観を考慮し、中洲の樹林の一部を10m程度の幅で残しながら施工する。
- [途別川合流点下流]
 - 河床部を掘削する。
 - 右岸側の高水敷については、現況の水域が極力残されるよう、水域周辺の樹木の内、川側を全て保全、堤防側を幅10mで保全し、その他の部分を平均年最大水位程度で掘削し、草原環境を創出する。
- [十勝川温泉より下流]
 - 樹林を伐採後、掘削して浅場環境を形成する。
 - 十勝エコロジーパーク下流の樹林の一部を疎林化する。

※具体的な実施については、今後、十勝エコロジーパークや北海道と調整

削削区域凡例

- 密→疎
- 伐開
- 掘削部凡例
 - 河床掘削
 - 平水位掘削
 - 高水敷掘削

削削区域凡例

- 密→疎
- 伐開
- 削削部凡例
 - 河床掘削
 - 平水位掘削
 - 高水敷掘削

【R1年度の工事実施、R2年度以降の工事予定】



【R1年度実施】 河道掘削工事



【令和2年度】川まちづくり

工期：令和2年10月～令和3年3月



◆目的

帯広市かわまちづくり計画に基づき、帯広市新総合体育館の整備と連携し、健康スポーツ都市の推進や多目的に利用できる河川空間を創出することを目的とし、管理用通路工事等を行う。

Q:かわまちづくりとは？

A:河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取り組み



【令和元年9月】十勝大橋右岸上下流エリアが都市・地域再生等利用区域に指定されました

Q: 都市・再生等利用区域に指定されると・・・

A: これまで公共性・公益性を有する者等に限定されていた河川空間の独占的な利用が、民間事業者等によるオープンカフェや収益イベント等の営業活動が可能となります。



河川敷地占用許可準則に基づく
都市・地域再生等利用区域の指定

オープンカフェ、イベント活動等の営業活動を行う事業者等による河川敷地の利用が可能になり、河川の恒常的かつ適正な利活用を促進



連携効果による
交流人口の増加

帯広市新総合体育館整備運営事業

- ・ P F I 事業を導入することにより、民間事業者の創意工夫や経験、ノウハウを技術面、経営面において積極的に活用し、より効率的かつ質の高い公共サービスの提供
- ・ 総合体育館改築、河川敷地へのアクセス整備等

占用主体の帯広市が予定している利用（写真はイメージ）

- ・ オープンカフェや物販等（体験型及びイベント型と一体で実施）
- ・ イベント型利用（サイクリング、グランピング、ビアガーデン、等）
- ・ 体験型利用（ラフティング、カヌー、各種屋外体験イベント、等）

